

## 武蔵野市第六期長期計画策定委員会（第1回）

日 時：平成30年7月26日（木） 午後7時～午後9時1分

場 所：市役所西棟4階 412会議室

### 1. 開会

### 2. 委嘱状交付

市長が、副市長2名を除く委員9名に委嘱状を交付した。

### 3. 市長挨拶

**【市長】** このたびは武蔵野市第六期長期計画策定委員会の委員をお引き受けいただき、ありがとうございます。

平成32年度（2020年度）から始まります第六期長期計画を今年から来年にかけて策定します。武蔵野市では、昭和46年に最初の長期計画を策定以来、半世紀近くに渡って、長期計画に基づく計画行政を行ってまいりました。長期計画は、市政の基本理念や実施すべき政策などを定めた、最も重要な市政の根幹となる計画です。市民参加、議員参加、職員参加によって幅広く議論を積み重ねて策定していくことに大きな意義があると考えております。さまざまな意見や報告を参考にしながら、市の将来像や課題について幅広く共有し、今後の10年間、さらにその先までを見据えた計画づくりに皆様のお力を頂戴したいと思っております。

私は『子ども子育て応援宣言のまち』武蔵野』を第一に掲げております。子どもは未来です。全ての市民の皆様にご理解いただきながら、未来への投資として子育て支援を行い、来るべき人口減少社会に少しでもその歯止めにもなるような取り組みを行っていきたいと考えております。

さまざまな課題の中には、意見の分かれる課題もあるかと思いますが、委員の皆様には、日ごろのご活動も踏まえた市民目線での発言をお願いし、議論を重ねていただきたいと思っております。

持続可能で未来に希望を持てる、誰もが住み続けられる武蔵野市を目指し、それを実現していくような計画づくりをどうぞよろしくお願い申し上げます。

ここで、企画調整課長が傍聴の可否について諮り、委員の承認を受けて、傍聴人が入室した。

### 4. 委員自己紹介

**【A委員】** 名簿の「所属」は大学の教授となっておりますが、この会合には地域のおやじとして参加

しております。三小のジャンボリーには、リーダーとして過去 16 年間に 10 回以上、参加している以外に、三中の開かれた学校づくり協議会の委員や職場体験の受け入れ、吉祥寺秋まつりでのだんご焼きなどの地域活動に参加をしています。専門は、工学分野のレアメタルの精錬やリサイクルですが、ここでは地域貢献という視点で考え、貢献していけたらよいと思います。

【B委員】 高齢社会への民間対応を振興する一般社団法人の事務局長をしております。武蔵野市の職員の皆様とは、国政や東京都の会議等でご一緒していましたし、私どもの調査研究委員会等でも委員をお願いするなどご協力いただいております。

地域を支える中であって、民間の力は相当強いものがございまして、官民が協力し合わないと、高齢社会は乗り越えていけません。そういう観点からお招きをいただいたのだらうと思っております。もともとは医療ソーシャルワーカーをしておりました。住まいは境でございます。

【C委員】 私は、吉祥寺の東町に 50 年以上住んでおります。専門は文化行政や文化政策で、全国の地方自治体の支援や事業運営などのお手伝いをしてきました。武蔵野市では、現在、文化振興基本方針の策定に関わらせていただいております。

この委員会は、五期の長期計画・調整計画のときにも参画させていただきました。前回はよくわからないことも多かったのですが、今回は、前回の経験をもとに、自分なりにできることがもしかしたらあるかもしれないという気持ちで参加しています。

【D委員】 「民間有識者（金融機関）」という肩書ですが、銀行に勤めています。今回は会社とは関係なく、一個人として参加しています。本業では、全国の自治体の方と一緒に観光 DMO や産業活性化プロジェクト等の地域活性化の仕事をしております。また、地方総合計画や地方総合戦略の作成支援を行ったこともあります。よその地域のお手伝いばかりではなく、市民として、自分が住んでいるまちのことに汗をかかないといけないと考え、都市マスタープランの改定委員会に参加させていただきました。そのご縁から、NPO の「市民まちづくり会議・むさしの」の活動にも参加しています。アカデミックではない世界で活動していますので、皆様とはちょっと視点を変えたことも提案させていただこうと思っております。

【E委員】 私は、大学では社会学が専門で、メディアやコミュニケーションの関係を教えております。

武蔵野市には 20 年ほど暮らしております。子どもが大学生、高校生になって、子育てが一段落したら、地域のことが少し縁遠くなりました。とはいえ、この先もずっと住むつもりでおりますので、子どもとのかかわりだけでなく、自分個人としてもつながっていくということを考えたときに、今回のお話をいただけたことを非常にありがたく思っております。

【F委員】 私は、大学の現代福祉学部で教えていまして、専門は都市計画です。特に、都市を「つくる」から「育てる」仕組みが重要だという認識のもと、その運営組織やお金、市民参加などについて研究しながら、全国各地の地域を飛び回っています。

小学生と中学生の子どもがいて、仕事と子育てで手いっぱいですが、地域の親トモさんたちに支えられて今日に至っています。いろんなところでの経験を生かしながら、住民の感覚で参加させていた

だければと思います。

【G委員】 私は、地元の大学で社会学の教員をしており、高齢者の社会参加やボランティア活動等が専門です。6年ほど前にコミュニティを検討する委員会にかかわらせていただきました。私の現代社会学科の学生も地域にでて、いろいろ活躍していますので、自分自身も市の中で、できることをしていきたいと考えています。

C委員とは、第五期長期計画・調整計画で一緒しました。長期計画は自分の専門以外のあらゆる分野を考えなければならず、実効性を保っていくために、非常に苦勞もしたのですが、とても意義ある経験をしました。

私は、ご覧のとおり、比較的若く、かつ、結婚もしてなくて、子どももいません。一般的には一番地域とかかわりのない人間ですが、そういう人は地域の中にとっても多いと思います。そういう人々をどう巻き込んでいくのかも含めて一緒に検討できればと思っています。

【H委員】 市民会議に参加して、I委員とともに策定委員に選出していただき、この席に座ることになりました。市民会議では、とても多くの意見が出て、私自身、とても刺激になりました。この策定委員会では、子どもを通じて地域活動に参加してきた経験などをもとに、一市民として意見を言いたいと思います。また、市民会議では考えの異なる委員さんもいらっしやいましたので、「こういう意見もありました」という形でも発言していけたらと思います。結婚以来17年間、桜堤に暮らしております。

【I委員】 境南町に住んでおります。私も単身者なので、地域にかかわるというご縁はなかったはずなのですが、現在プレイスが建っているところに雑木林の公園をつくろうという市民活動に参加したことをきっかけに、地域との接点ができました。第四期長期計画・調整計画で、緑・環境・市民生活分野の市民委員として策定委員を務め、計画策定後は境南コミュニティセンターの運営委員になりました。知り合いはこうして増えていくのだなと思いましたし、それはとても豊かなことでした。今回、H委員とともに市民会議で策定委員に選んでいただきましたので、私の経験や考えてきたことなどを皆さんと一緒に意見交換できればと思います。

【J委員】 副市長として、総合政策部、総務部、健康福祉部、子ども家庭部、市民部、教育委員会等との連絡調整に関する事務を担当しております。3月31日までは健康福祉部長、その前は防災安全部長で、3.11のときには武蔵野市政初の災害対策本部を立ち上げ、運営を担当しました。また、コミュニティや市民協働の担当課長もしておりました。この第六期長期計画では10年間を見越した武蔵野市のありようについて、委員の皆様のご意見を賜りながら、よりよいまちづくりを進めていけたらいいなと思っています。

【K委員】 副市長として、財務と防災安全、都市整備、環境、会計それから水道の調整を担当しています。もともと技術職なので、主にまちづくりの分野に携わってきました。各部門、いろいろと課題のあるところについて、10年あるいはその先を見据えた議論を皆さんとともにすることで、将来のまちづくりを輝かしいものにしていきたいと考えております。

## 5. 事務局紹介

市長が公務のため退室した後、事務局、ワーキングメンバーが自己紹介した。

## 6. 議 事

### (1) 策定委員会の運営について

企画調整課長が、会議の公開について、傍聴の可否について、議事録の公開についての3点を説明し、下記のとおり承認された。

- ・委員会は公開とし、傍聴を認める。
- ・傍聴者に配布する資料は、基本的には委員と同じとする。
- ・議事録は、要録を公開する。発言者の氏名は明記しない。
- ・作業部会・庁内推進本部のヒアリング等は非公開とするが、計画策定後に会議要録を公開する。

### (2) 委員長、副委員長選出

企画調整課長が資料3の説明をした後、互選により、C委員が委員長に決定した。また、委員長が、G委員を副委員長に推薦し、承認された。

**【委員長】** 年の功と、女性活躍社会ということなのではないでしょうか、そろそろ女性に委員長をとということではないかと思います。大変明晰な副委員長と、委員の皆様のおかげにしながら、この長期計画をまとめていきたいと思っています。

先ほど、五期の長期計画・調整計画の策定委員をやっている、よくわからなかったと申しましたが、策定委員の役割や武蔵野方式という策定方法について、私は終わってからようやくわかりました。

私たちとりわけ大学の教員は専門性がありますから、自分の専門性を背負って意見を言えたらいいのですが、ここは多分そういう場ではないです。自分の考えや自分の何かを通せるところでもありません。市長、市議会議員の皆さん、行政の皆さん、市民の皆さん、それぞれに武蔵野市を良くしたいという思いをお持ちであり、その多様な意見を市民の立場から調整し、10年間の道筋をつけることを、この委員会が担うと考えています。特に大学の先生は「そこは自分の専門じゃないから」と、発言を控える傾向があると思うのですが、どの分野に関しても、一市民としての意見を積極的にお出しください。そのご意見が大事なのです。

それから、皆さんはお忙しい中、ここに集まって来ていただいていますので、時間厳守で運営していきます。皆さんも、ぜひ準備をして臨んでいただきますようお願いいたします。

**【副委員長】** 委員長をしっかり補佐していきます。私は、市民の誰もが専門性を持っていると思っています。また、市民の誰もが市民生活の当事者ですから、異なる意見でぶつかることもあります。

議論を重ねて、調整できるところは調整していかなければいけません。ただ同時に、長期計画は、細かい調整だけをしてあまり意味がないので、大きな理念を皆さんの中で共有していくことも大事なのかなと思っています。

若輩の身でありながら副委員長という大役を拝命してしまいましたが、汗をかくのが私の仕事だと思っております。

### (3) 庁内体制及び策定スケジュールについて

企画調整課長が、庁内推進本部について（資料5）、ワーキングチーム設置について（資料6）を説明した。また、長期計画全般について（資料7、資料8）、スケジュールについて（資料9）を説明した。

【A委員】 資料8の1「基本的な考え方」の4点目「これまでと同様、長期計画は全施策を網羅したのではなく」というのはどういう意味でしょうか。

【企画調整課長】 市役所で行う全ての個別の施策をここに文言として載せているわけではないということ強調しています。市民の皆様にご覧いただける形で、なるべくコンパクトにするために、全ての施策を書くのではなくて、特に重点的なものについて、全体を総合調整した形で載せているという意味で、網羅的なものではないということ表現しております。

【A委員】 全てを網羅する必要はないということですね。

【企画調整課長】 施策として網羅する必要はないということです。一方で、長期計画には全ての施策の根拠がなければいけないという長期計画の決まりがあります。そのため、長期計画は全て文章で書かれており、この文章の文脈からも読みとれないものについては、実施できないという位置付けです。この長期計画の文章について、比較的抽象度の高い形で記載しているのが武蔵野市の特徴です。

【委員長】 書かれていなかったら、やれないということです。

【D委員】 分野を見ると、文化・市民生活や子ども・教育といった社会施策はたくさんあるのですが、経済施策のところは極めて少なく、産業振興策が全く書かれていません。雇用創出は他の各市町村は最重要視している施策ですが、武蔵野市は、ベッドタウンという位置づけで経済施策を重要視しないということなんでしょうか。都市型産業などは期待できる分野だと思うのですが、どういう整理をされていて、どこで読めるようになっているのですか。

【企画調整課長】 雇用創出と産業振興は、第五期長期計画・調整計画の38ページの「文化・市民生活」の「基本施策5 地域の特性を活かした産業の振興」に5項目を掲出しているのですが、雇用創出についてはクローズアップされていませんので、この長期計画の中で、その部分についてご議論いただけたらと考えております。

【J委員】 個別計画として第二期武蔵野市産業振興計画を現在、策定中です。コンテンツ産業であるとか、今後の産業のあり方、雇用のあり方など、あらゆる分野を課題としています。そこでの検討が一定まとまれば、この第六期長期計画の策定委員会にご報告を差し上げたいと考えております。

【I委員】 評価について、資料8の2「策定方法」の(1)の②市民会議等で「充実」とあります。この評価は、誰がどうおこなったのですか。第四期長期計画・調整計画の時からも市民会議の形は大

大きく変わっています。行政が一定の評価をした上での変化だとは思いますが、その評価について今後は他の方も参加することによって、別の視点もでてくるのではないかと思います。

また、策定スケジュールについては、日にちは決まっていますが、時間が書かれていません。時間の枠組みが決まっているところは教えていただければと思います。

【企画調整課長】 市民会議は、これまで内部的に評価した上で、「限られた時間で発言の機会が限られる」という課題がありましたので、10人の方に車座の形で議論していただいていたのをグループ討議という形に変更いたしました。また、委員の方のほかにも、市内でさまざまな地域活動をされている市民の方にも一緒に入っていただくことで、より熟議がなされることを期待し、「充実」という表現を記載いたしました。

スケジュールについては、策定委員会は基本的に19時から21時でございます。施設等見学、意見交換会、全員協議会につきましては、詳細が確定次第、時間の入ったものをお渡しいたします。施設見学については午前中から市内施設を見学いただき、調整できれば市長との意見交換会も実施したいと考えております。

【委員長】 時間の問題は大事なので、決まったら早目にお知らせ願います。

【F委員】 「施策を網羅」というところがわかりにくいです。武蔵野市は、政策・施策があって、個別の事業があるというレイヤーの考え方なのだと思うのですが、前回の計画を見ても、重要な施策が書かれていません。全施策を網羅したものではないとすると、何が網羅されている必要があるのですか。

【企画調整課長】 分野の中が、基本施策、施策、事業というレイヤーで、基本施策のレベルで全体を網羅しているという位置づけです。第五期長期計画・調整計画の76ページ「施策体系図」でいう事業は、特出しの事業であり、ここに記載がないからやらないというわけではありません。上位の基本施策の部分で、全施策を網羅していることが読み取れるような記載をしていきます。

#### (4) 各委員から市政に関する課題について意見交換

【委員長】 市政に関する課題について自由に話せるのは今日くらいですので、各委員のご意見をいただきます。

【I委員】 私は市民会議に応募したときに、3つのことを書かせていただきました。1つは、人のつながりをどうつくっていくのか、取り戻していくのか。あるいは、新しく入ってくる人たちをどうつないでいくのか。2つ目は、武蔵野市をもっと良くするにはどうしたらいいのかを一緒に考え合うために、「対話」の機会をどんどんつくっていく。3つ目として、その2つのことを進めるために、行政と市民が協働する部分を広げていく。

武蔵野市は、豊かなまちです。今、武蔵野市に住んでいる人は、その豊かさを感じていると思います。その豊かさとは何なのか。もっと豊かな武蔵野市にしていくときに求められるのは何かをテーマに考えられればと思っています。また、そういう全体的なことは、分野別のヒアリングや話し合いに入る前にしておいたほうがいいのではないかと考えています。

【H委員】 市が長期計画を策定しているということを私と同世代の方やもっと若い方々がほとんど

ご存知ないんです。市報も読まないし、市政を我が事として考えることもないです。そういう現状がある中で、市が計画などの案を出すと、市民からはいろいろな意見が出ます。私も反対した事案があります。そういうときに、この計画は、こういう事情で、こういう結論になったということを受得していただけるようにしていただきたい。市民の方には、どんどん市政に興味を持っていただき、市政に参加する仕組みを計画策定で考えていけたらいいなと思っています。

【F委員】 今までのまちは、例えば、子育て支援や介護、あるいは商店街をどうしようかといった個別の機能を整えることが重視され、市役所も、個別分野の計画に合わせて部署がつくられていました。しかし、これからのまちはユーザー目線で、使い手の視点に立って捉え直すべきです。これから武蔵野市でどういう働き方、住まい方をしたいのかを議論すれば、武蔵野市の貴重な空間や時間資源をどう使うべきかが見え、次の施策や市役所の形にもつながっていくのではないのでしょうか。

また、吉祥寺や三鷹北口、境など武蔵野市の拠点はどうあるべきなのかにも関心があります。吉祥寺は今までも危機を乗り越えてきましたが、これから物販や飲食などの商業中心でいいのか。そこでも暮らし方、働き方の議論が重要です。都心と郊外の間にある武蔵野市だからこそできることがある気がしています。

【A委員】 私は引っ越し歴が20回以上あります。ありとあらゆる、地域、自治体を見てきました。武蔵野市は、本当に豊かな市だと思います。同時に、成熟していて、高齢化が進んでいます。私がジャンボリーや、開かれた学校づくり協議会、秋まつりなどに参加していると、武蔵野市という地域には、非常に優秀な人材がたくさんいることに気づきました。ただ、そういう方々は、社会や会社で活躍していて、地域貢献をする機会があまりありません。市民の地域貢献への働きかけは重要であり、能力・やる気・時間のある人たちを市のことにどう引き込んでいくか。これが、よりよい豊かな成熟した武蔵野市を完成させ、将来、子どもの教育、育成にも大きなメリットになるのではないかと思います。

【B委員】 乳幼児から高齢者まで全ての市民にとって、常に心配なのは「健康」です。憲法でも「健康で文化的な生活」が保障されているわけですから、「健康」については、行政的には今まで「医療」として捉えられてきましたが、医療は健康を回復する、もしくは維持するための一部です。健康を維持するというのは、病院にかかることだけではないのです。むしろ、健康で暮らせるような環境整備が重要です。

同時に、市は小中学校や保育などの幼少期の教育を担っています。教育の段階から社会保障をどう考えるのか、どう意識させるのか。20歳になったら年金を納め、40歳になったら介護保険料を納めるという手続き的な話ではなくて、社会の中で、日頃から市民どうしが、さまざまな形で支え合えることについて、教育の一部として語られるべきではないかと思っています。

【D委員】 各施策において、地方公共団体は財政的にも人員的にも制約条件をたくさん抱えています。そこで問題意識として3つあります。1つ目は、地域としての戦略は一体何なのかをしっかりと定めるということ。2つ目に、戦略における選択と集中で、取り組みたい施策に優先順位をつけて取り込んでいくこと。3つ目は、継続性の確保です。地方公共団体で、打ち上げ花火のごとく各施策を打ち上げても、結局長続きせず、何の力にもなっていないところが五万とあります。

武蔵野市は、産業振興の意識が希薄だと思います。域外からどう富を獲得し、また、域内でどう富をつくり上げていくのか。税収をどう上げていくのか。その税収を使って、地域としてマーケティングやブランディングをどう行っていくのかという点は、極めて重要です。

吉祥寺は海外のインバウンド観光客の間で人気度を上げています。羽田空港から 20 分に 1 本バスが出ているという利便性のよさと、「おもしろいまち」といったところが評価されているのです。このような目線も踏まえて、武蔵野市の将来を考えていくことも必要になると思います。

【E委員】 課題はと言われても、個人としてはほとんどないと言いたいところです。すごく恵まれている場所で、便利のために、人とのつながりは、自分の日常のつながりで事足りてしまっていて、また人とつながるような場所が少ないので、地域には余り求めずに無関心になっているのではないかと。地域に愛着を持ってもらうなら、その便利さをこれ以上便利にしていいいのかなと思っています。

【J委員】 武蔵野市は、市民の皆様の非常に高い担税力に支えられて、全国的にも先進的と評価されるさまざまな施策を行ってきました。福祉の分野で言えば、テンミリオンハウスやレモンキャブ、いきいきサロンを初め、前回の介護保険制度改正時には、初めて市独自の認定ヘルパー制度を創設しましたし、コミュニティセンターは自主三原則で運営されています。ジャンボリーも含め青少年問題、環境分野だけでなく、自主防災組織など、どれも市民の皆さんの力によって市政や地域社会が支えられています。

今後のまちのありようという視点で考えると、今、武蔵野市は毎年約 1200 人の赤ちゃんが生まれていますので、保育園の整備や小中学校施設の改築・増築が必要になります。一方で、高齢者も増えていて、特別養護老人ホームを整備しても、社会資源としては十分とは言えない状況があります。財政課題ということでは、ふるさと納税の大きな影響を受けています。まちのありよう、人口と財政の推移を総合的に見ながら、優先順位をつけていく必要があると考えています。

【A委員】 ふるさと納税により税収が流出してしまっているということですか。

【J委員】 そのとおりです。

【委員長】 5億円だと聞いています。

【K委員】 長期計画は、財政面を考えながら、優先度をどう整理していくかだと思っています。ここに位置づけられた重要課題、重要施策は、この 10 年で結果を出すという形になっていきます。私の担任する分野は主にまちづくりになりますが、吉祥寺の再生がここ十数年の大きな課題になっています。ただ、行政側がこれまでのように投資して、基盤を再整備するというのではなく、一定の評価を受けているまちを民間がどう意識して、再生していくのか、今その難しい過渡期に来ています。その辺について、ぜひ議論していただきたいと思っております。

【副委員長】 この種の計画策定では、どうしても担い手不足の話、支え合いの支える側の議論が多くなるのですが、支えられる側のことも考えていかなければいけません。支えられる側が弱者だからということだけではなく、支える側も、いつ支えられる側に回ることになるかわからないからです。今、支えることはできても支えられるのは苦手という人は多い現状があります。「助けて」と声を上げるのは、実は難しいのです。

そのために重要なのは、多様性をどう認めていくのかです。サラリーマンがいて、主婦がいて、子



どもがいる生活が当たり前ではなく、様々な生活パターンがあります。高齢者も、弱者だけではなく、お金持ちですごく健康な人もいれば、困窮している人もいるかもしれない。性的指向も人それぞれです。そういう多様なあり方の人々が声を上げられる仕組みをつくっていく。そこで大事なものは、健康であり、生活の質を上げるように促していくことではないかと思っています。

【委員長】 私からも一言。私が第五期長期計画・調整計画の策定委員だったときに残念だったのは、個別の問題にとらわれてしまって、この地域をどうしたいかという戦略のような話が十分にできなかったことです。個別の問題も大事ですが、この場では、未来に向けたものを考えていけたらと思っています。武蔵野市は、豊かなだけに、危機的な状況にある自治体とは違って、今すぐこれをしなきゃいけないみたいな感じになりにくいのが、私にはもどかしく感じられました。今回はそういう議論もできればと思っています。

#### (5) その他

【A委員】 児童館のような場こそが、地域のやる気のある人、能力のある人が活躍できる場、地域貢献のきっかけを作る場だと思いますので、“あそべえ”について市は今後どのように考えているのか、過去はどうだったのか、“あそべえ”の状況がわかるものの資料等を、次回の会合で提供して下さい。

【H委員】 あそべえは校区ごとにかなり違うので、地域子ども館全館、館毎の資料を出していただけると、地域性もわかって参考になると思います。

【企画調整課長】 所管に確認して、どういう資料が出せるか検討して準備します。

【D委員】 歳入と歳出の項目を、できるだけ項目をまとめずに、ブレイクダウンして出してください。また、1施設当たりや、住民一人当たりといった、単価なども、出してください。

【I委員】 市民会議では、財政状況のビジョンが示されていましたが、策定委員会資料として、複数のシミュレーションによるビジョンが出せるのならばお願いします。

【企画調整課長】 幾つかのパターンが出せるかどうか、調整します。

【E委員】 18～19歳、22～23歳の若者の転入転出の約10年の傾向がわかる資料をお願いします。

【企画調整課長】 どこまでさかのぼるかにもよりますが、傾向は出せると思います。

【D委員】 細かい数字の議論をするわけではなく、トレンドが解れば結構です。新たに資料を作ったというよりは、既存の資料をそのまま御提示いただければと思います。働き方改革ですので、事務局の皆さんも無理をなさらないでください。

【委員長】 まとめて出してくださるだけで助かります。

【委員長】 昼間人口についても、資料の準備をお願いします。

【企画調整課長】 昼間人口数はすぐお出しできると思います。

【委員長】 第1回策定委員会を終了します。

以 上